

リサーチゼミ

「身近な野鳥に見る いのちのつながり」

を11月2日（金）放課後に実施いたしました。

<ゼミ概要>

講師：岐阜大学名誉教授 箕浦秀樹先生

参加生徒：9名（1年生8名、2年生1名）

内容：日常の何気ない風景からとらえた野鳥の生きざまの写真を示し、それにまつわる話を聞きながら、いのち・環境などについて一緒に考えた。また講師自身が研究開発競争の厳しい世界に長い間身を置いてきた経験を踏まえ、進路選択や将来の生き方について話をしていただき、生徒たちは熱心に聞き入った。

<生徒意見抜粋>

- 今回の講演を通じて、私は今まで普段見たことのない動物ばかり興味を持っていたのですが、身近にいる生き物の中でもこんなに厳しい世界があるのだなということがわかり、とても興味を持つことができました。
- 身の回りにいる野鳥を長時間観察する機会はあまりなく、鳥の表情を観察すると一羽一羽表情が変化していてすごいなと思いました。鳥も人間と同じように子へのやさしいまなざしや怒りの表情があり、機会を見つけて観察していきたいと思った。
- 野鳥の観察は日ごろからしていなかったもので、非常に勉強になった。燕が2分に1回餌やりをしていることや、人間が何も知らないうちに卵を壊していることを知った。これからはさまざまなところに視点を置いて、生物を観察していければいいなと思った。
- 「ケリ」という鳥がいることは知らなかった。身近な場所に多種多様な生物がいることに驚きました。自分でも写真を撮りに行きたいです。

<ゼミ風景>



説明に聞き入る様子



意見交換の様子